

第2学年

話すこと・聞くこと

相手の立場や考えを理解し、互いの発言を検討して自分の考えを広げること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

- ・自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。
- ・相手の意見を踏まえて、自分の考えをもつことができない。

(1)は書けたが、
(2)自分と逆の立場となると、書けないし、伝えられない。
(生徒2)

問 「射倒す」とあるが与一が男を射たことについて、

(1)「あ、射たり。」と言った人の気持ちを考えて、現代語の話し言葉で書きなさい。

・与一が見事敵を射て、命中して嬉しいから。(生徒1)

(2)「情けなし。」と言った人の気持ちを考えて、現代語の話し言葉で書きなさい。

・無回答 (文末のみ…だなあ)
(生徒2)

(「扇的」より)

自分と同じ立場であればある程度書けるが、内面の深くまで考えられていないため、自分の意見がなくなってしまう。(生徒1)

実践の概要

単元名

登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう

『平家物語』 光村図書

目標 相手の立場や考えを理解し、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

- 内容
- ・自分の意見を話し言葉でまとめる。
 - ・自分と同じ意見を聞いて考えをまとめる。
 - ・逆の立場の意見を聞いて考えを深める。
 - ・両方の立場の意見を聞き、自分の考えを広げる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう	相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。
第2学年	登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。 ・相手の意見を踏まえて自分の考えをもつことができない。
第1学年	話題や方向性を捉えて話し合おう	話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

単元末の目指す姿

- ・自分の意見を具体的に考え、ICT機器等を活用し、自分の考えをまとめ、発表できるようになる。
- ・人の意見を聞いてその思いを尊重し、お互いの立場に理解を示すなど幅広い視野で物事を考えられるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

項目を示したワークシートを用いて発表する内容をまとめさせる。

- 活動のねらい▶
- あらかじめ話す内容を整理し、考えたことと話す内容に一貫性をもたせる。
 - 観点を揃えることで、話し合いにおいて考えを深めることができる。

ワークシート

テーマ

「射倒す」とあるが与一が男を射たことについて

(1)「あ、射たり。」と言った人の気持ち

• 舞っている者も射ることができるとは、与一の腕はすばらしい。

(2)「情けなし。」と言った人の気持ち

• 敵といっても、こちら側の腕を認めてくれている人なのになどいことだ。

(3)自分は(1)(2)のどちらの立場に近いか。

• (2)の立場に賛成。与一の腕を認めてくれたのに、殺してしまうとは、あまりにもひどいと思った。

ここがポイント

発表をする際には、原稿を読まず、自分の言葉で説明するように指示する。

(期待される生徒の姿)

自分の立場が明確になり、話し合いの際に、同じ立場からは表現の工夫を、逆の立場からは考え方の違いを学ぶことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

各自で意見を考えた後、立場を明確にして考えを交流する活動を行う。

- 活動のねらい▶
- 立場による意見の違いを比較し、自分の考えに反映させることができる。

ここがポイント

- 「誰が」「どの立場で」「どのような意見を言っているのか」を整理してメモするように指示する。
- 考えを比較させたい時など、必要に応じて、生徒の発表用ワークシートをスクリーンに投影する。

考えの交流



ワークシートで、どちらの立場の気持ちも考えていたから、逆の立場の言いたいこともよくわかるな。

この意見を使って、自分の考えに書き加えよう。

(期待される生徒の姿)

- 話し合いの中で、同じ意見を聞くことによって考えをまとめられる。
- 逆の立場の意見を聞くことで自分の考えを広げられるようになる。

第2学年

書くこと①

社会生活の中から課題を決め、多様な方法で資料を集め、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。

何か調べるときは、インターネットだけを使うなあ……。



複数の資料から自分の考えを書くには、どうすればいいんだろう？

- 自校での「調べ学習についてのアンケート」によると、「最もよく利用する手段」はインターネットと答えた生徒は、81.6%だった。また、「インターネットのみを利用する」という生徒も、32.6%いた。
- 単一の情報のみから自分の考えをもつことが多く、複数の資料を比較・検討して考えをまとめることが不得手である。

実践の概要

単元名

様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう

「調べて考えたことを伝えよう」東京書籍

目標 2つの資料を使い、スポーツについてのレポートを書く。

内容 • 選んだ種目についての資料を、図書館やインターネットを使い、班で集める。

• 2つの資料を選ぶ。

• 資料を比較・検討し、レポートを書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	2つの異なる考え方の文章を比較しよう	異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
第2学年	様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう	複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。
第1学年	小学6年生に向けて学校紹介文を書こう	書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

単元末の目指す姿

- 書籍・新聞・インターネットなど、複数の資料を使い、課題について調べることができるようになる。
- 複数の情報を比較・検討し、そこから自分の考えをもつことができるようになる。



つまづき解消に向けた指導の工夫

書籍や新聞など、複数の資料を集める活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 目的に応じた資料の探し方を学ぶ。

ここがポイント

- 最初に種目の概要について百科事典で調べ、全体を把握してから、次にもっと調べたいと思った事柄の専門書を見るように指示する。その際、目次や索引を見ることも伝える。
- 資料を探す際には、今後公共図書館等での調べ学習にも応用できるよう、日本十進分類法の番号〔000総記（百科事典）700芸術（スポーツ）等〕も併せて説明する。

探し方を学び、班で資料を集める



百科事典で調べたら、おおまかな歴史がわかった。

この本には、詳しいルールが書いてある。

伝えたいことによって、取り上げる資料も変えた方がいいなあ。

ここがポイント

- 自分のテーマに合う資料を2つ選び、それぞれをまとめさせる。
 - それらを読み比べ、わかったことや考えられることを考察として書かせる。
- ※考察を書くことが難しい生徒には、2つの資料について、「共通しているところ、または全く違うところを探そう。」と、共通点や相違点に注目するようアドバイスする。

2つの資料を使い、考察を書く

資料1

体操の魅力

2年()組()番 名前()

オリンピックなどで体操競技での日本人の活躍を目にするが、私自身は、ほとんど知っていることがなかった。技や点数のことについて知りたいと思った。

2. 調査方法

体操について詳しく書かれている本で調べた。インターネットで、体操連盟のページを見て調べた。

3. 調査結果

(1) 体操の歴史の美しさとは…

体操は、演技の難しさや美しさ、美しさを競うスポーツだ。演技に点数をつけるのだが、実は満点が存在しない。それは、1976年のオリンピックでティナ・コマチ選手が1点満点を3回も出したことから、変わったそうだ。全員が技のレベルだけを高めようとし、演技の美しさを目指すことを見失いつつあったからだそうだ。ちなみに現在では、難易度と美しさは分けて採点している。

資料2

(2) 各競技の特徴

体操で「美」と言われるのが、鉄棒、ゆかである。鉄棒…様々なバリエーションがある。(傾き、逆手など…) 大空に浮かぶ宙返り技、びねり技、回転する「車輪」技がある。(例)エンドー 倒立→屈伸ながら倒れる→同じ倒立 コバチ 鉄棒の上で回転して体倒り中か…演技面から出たり、時間オーバーになると減点。(例)カネコ 鉄棒のびねり技がある

4. 考察

2つの結果より、体操は、選手の名前が技名になったり、選手によってルールが変わるなど、各選手が生まれることで発展していくスポーツだと分かった。また、技の難易度だけでなく、奇抜さや危険さでの美しさも見人々に感動を与えるスポーツだと分かった。技が成功したから完成。ではなく、何々まで美しく魅せようとする気持ちがあるんじゃないかと思った。これから体操を見る時、技はもちろん、その美しさに注目してほしい。そして、同じスポーツをする人として私も努力を見習いたい。

5. 参考文献

「スポーツなんでも事典 体操」
2008年11月20日 株式会社ほのぼの出版
「体操競技の採点方法の概要」
<http://fudoushi-taisai.sports.coocan.jp>

(期待される生徒の姿) 各資料（書籍・インターネット・新聞等）の良さを理解し、用途に合った資料を集めることができる。また、複数の情報を比較・検討し、そこから自分の考えをまとめることができる。

筆者の主張に対し反論する(否定的な)文章を書く

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか?～

筆者の主張に対し、根拠を明らかにして反論する(否定的な)文章を書くことができない。

「君は『最後の晚餐』を知っているか」(光村図書)を読み、筆者の主張に反論する意見を書く

「最後の晚餐」を今まではルネサンス時代の名画の中の一つとして見ていた。だがこの論説文を読み、この絵が単純な絵ではないことがわかった。見る人の心をつかんでほさない「最後の晚餐」、この絵に隠されたトリック、レオナルドの天才的な発想とその才能に私は驚嘆した。この絵はただ美しいだけではなかったのだ。やはりレオナルドはとてつもない天才で巨匠といえるだろう。(生徒作文)

文章の内容に衝撃を受けたにしてもまた筆者の文章が説得力のある文章であったにしても、全面的に受け入れてしまっている。

実践の概要

単元名

論理をとらえて

「君は『最後の晚餐』を知っているか」光村図書

目標 筆者の主張に対し、根拠や理由を明らかにして、反論する文章を書く。

- 内容
- 筆者の主張に対して納得できない点、同意できない点を考え、メモを取る。
 - メモをもとに班で話し合う。 ※テーマを絞り、内容の深まる話し合いにする。
 - 下書き、推敲、清書する。
 - 班で交流する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容(単元名)		つまずきの実態
第3学年	慣用句・ことわざ・故事成語	論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない。
第2学年	論理をとらえて	筆者の主張に対し、根拠を明らかにして反論する(否定的な)文章を書くことができない。
第1学年	いにしえの心にふれる	根拠や理由を明らかにして、筋道の通った文章を書くことができない。

単元末の目指す姿

- 根拠を明らかにしながら、筆者の主張に対し反論する(否定的な)文章を書くことができるようになる。
- 評価の観点に沿って、書いた文章を客観的に推敲したり評価したりできるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

筆者の主張に対して納得できない点、同意できない点をグループで話し合わせる。

活動のねらい▶ ・反論する（否定的な意見を述べる）ためには、説得力のあるわかりやすい根拠が必要であることを理解する。

ここがポイント

- ・班活動で納得できない点・同意できない点を話し合うことにより、班のメンバーのさまざまな視点や考え方を知ることができ、考えをより深めることができる。
- ※この活動では、反論に焦点を当てているが、批判的なものの見方や考え方は、根拠立てて共感することも含まれることを確認する。

観点を立てて話し合うことにより、内容を整理する



「理屈ではなくまず衝撃がやってくる。」

- 衝撃が来なかったら名画じゃないのか。
- 普通の人にはきっと衝撃なんか来ないよ。

「芸術は永遠なのだ。」

- 絵の具が剥げ落ちて永遠はないよね。
- 永遠に残したいと思わないからフレスコ技法ではなくテンペラ技法で描いたんだと思うな。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

普段文章を書く際に、筆者（作者）の主張に対して肯定的な意見や感想を書くだけでなく、批判的（否定的）な意見・感想を書くことも意識させる。

活動のねらい▶ ・様々な角度から分析したり、批評したりする力を育てる。

ここがポイント

- ・3年生では、小見出しの効果について評価させたり、様々な観点を立て、対象を分析・批評したりすることが求められる。その際に求められるのが「批判的なものの見方・考え方」である。そこで、筆者の主張に対して共感するだけでなく、あえて反論する考えや根拠を挙げさせることにより、「批判的（否定的）なもの見方・考え方」を育てる。
- ・指導にあたっては、観点に沿って根拠を話し合わせることに重点を置き、単なる思いつきや感情による反論にならないよう留意したい。また、話し合いの後は180字から200字程度の文章にまとめさせ、相互評価させたい。

関連する学習

- * メロスの言動について批判的に書く。(第2学年「走れメロス」)
- * 筆者の考えた「小見出し」は適切かどうか批評する。(第3学年「月の起源を探る」)
- * 新聞広告を批評する。(第3学年「批評文を書く」)

第2学年

読むこと①

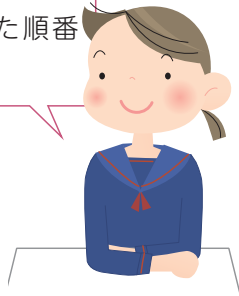
例示の配列を推論することで文章展開の効果を考えよう

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。

本論の具体例の順番が何かに関係あるの？
筆者が思いついた順番じゃないの？



「水田のしくみを探る」岡崎穂より

③ 水資源の確保

② 災害を防ぐ

① 連作障害を防ぐ

問 水田を土で作る長所についてなぜその順番で筆者は配列を考えたのか。自分の考えを答えなさい。

実践の概要

単元名

分析的に考える

『動物園でできること』三省堂

目標 「本論」で書かれてある例示について考え、自分なりの根拠をもつ。

- 内容
- ・「本論」の例示を別々に提示し、根拠をもとに配列を考える。(個人で)
 - ・グループで意見を交流することで筆者の論理の展開を推論し、仮説を立てる。
 - ・筆者の配列を知り、自分たちの仮説と比較する。
 - ・学習した説明文の形式を使って作文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第3学年	学びの扉をひらく	書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。
第2学年	分析的に考える	叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。
第1学年	わかりやすく伝える	文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

単元末の目指す姿

- ・「個人」で根拠をもち、「グループ」で意見を比べて推論するという順序で活動することで、筆者の論理の展開や意図を考えられるようになる。
- ・「例示」の配列を意識して作文を書くことにより、例示が主張を支える大きな根拠になっていると気付くことができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

「本論」の例示を別々に提示し、グループで意見を交流しながら筆者の論理の展開を推論し、正しい配列について根拠をもとに仮説を立てさせる。

活動のねらい▶ ・それぞれの根拠を出し合い、比較したりまとめたりしていく中で論理的な読みを深める。

ここがポイント

個人の意見（パーツ）をグループで集め、比較したりまとめたりしていくことが、筆者の論理の展開を推論することにつながる。ここでしっかりと仮説を立てておくことで、次の段階で筆者の意図を考える大きな手立てになる。

論理の展開を推論する



「野生生物の魅力を引き出した
い」という筆者の思いに照らし
合わせて3つの例示を比較して
みると…。

(期待される生徒の姿)

個人の意見を比較したりまとめたりすることにより、論理の展開を推論することができる。また、内容・形式ともに注目することで、前後の段落から根拠を見つけ出す姿勢が生まれる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

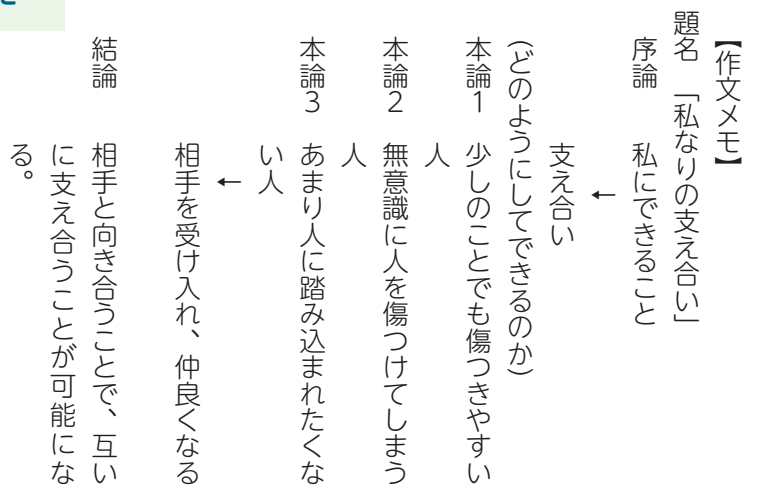
教科書で学習した説明文の形式を用いて作文を書かせる。

活動のねらい▶ ・筆者の論理の展開を模倣することにより、筆者のものの見方やとらえ方の追体験をする。

ここがポイント

筆者の論理の展開を模倣し生活作文を書くことにより、筆者の見方や意図を知ることにつながる。今回は特に「本論」の例示の配列に意識をさせることで、例示が筆者の主張を支える大きな根拠になっていることに気付かせる。

作文メモ



(期待される生徒の姿)

「本論」の例示を配列することにより、どのような説得力をもたらしているのか検討する。同じ例示でも並べ方によって効果が変わることを経験できる。

場面の展開をとらえながら、文章全体のつながりを考えること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

場面の展開をとらえながら、文章全体のつながりを考えることができない。
(物語全体のつながりやキーワードをとらえられることができていない)



メロスが再び走り始めたのは、なぜでしょうか。

ここでやめたら、セリヌンティウスを裏切ることになるからかな。

自分の名誉を守るために走っているのだと思う。

セリヌンティウスを殺されたくないから。

実践の概要

単元名

描写を味わう

『走れメロス』東京書籍

目標 再び走り始めたメロスの様子をとらえ、走り続けることの意味について考える。

内容 ・「再び走り始めた場面」の音読を繰り返し、再び走り始めたメロスの姿がどのように描かれているかをとらえる。

・「メロスは何のために走るのか」、走り続けることの意味を考える。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第3学年	関係を解く	登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解することができない。
第2学年	描写を味わう	場面の展開をとらえながら、文章全体のつながりを考えることができない。
第1学年	作品を読み解く	登場人物の行動描写から心情を的確にとらえることができない。

単元末の目指す姿

- 音読と発問について考えることを繰り返し、場面ごとの人物や情景の効果的な描写に着目し、メロスと王の人物像や、考え方の変化をとらえることができる。
- 発問に対する友達の意見をメモしながら聞くことで、新たな視点をもち、さらに自分の考えに説得力をもたせようと、文章（物語）全体をとらえ直すことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

登場人物の行為の意味について、根拠を示しながら考えを書く活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 文章描写から想像力をはたらかせて自分の考えを表現させる。

ここがポイント

- 「メロスは何のために走っているのか。」等、主人公の行為の意味を「何のために」と問うことで、根拠に基づいて説明する必要性をもたせる。
- 各場面の登場人物の行動とその際の心情を比較させ、場面ごとの変化やつながりを意識させながら、自分の考えを書くように指示する。

登場人物の行為の意味を考える



「大きなもののために走っている」の「大きなもの」は、互いの信頼だと思う。最初は単純な正義感からだったと思うけど、弱い自分と戦ううちに、メロス自身も成長してきていると思う。

（期待される生徒の姿）

- 行動描写だけでなく、場面の展開も根拠にしなが、登場人物の行為の意味を考えることができる。
- 「5行で書こう」などと、書く分量を指示することで、行為の意味を端的にとらえることができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

登場人物の行為の意味について考えたことを、ペアやクラス全体で交流し、自分の考えと比較させる。

活動のねらい▶ 個々の生徒の読みを学級全体の読みへと広げていき、さらに思考を深める。

ここがポイント

- 「自分の根拠と理由が合っているか」「場面ごとの変化やつながりに基づいているか」など、交流する際の視点を示すようにする。
 - 自分の考えと比較しながら聞き、発表を聞きながら加筆するよう指示する。
- ※個々の生徒の読みの共通点や相違点を比較させ、学級全体の読みに広げ深めるため、必要に応じて意図的に指名発表をする。

全体での交流



「信実」「友情」「信頼」、どれも、メロスの中で何度も揺れ動いている中で湧き上がってきた思いというのは共通しているな。

座席表を用いた「学びを深めるキーワードの記録」

（期待される生徒の姿）

根拠となる描写等、友達から新たな視点を得ることができる。視点に基づいて発表を聞き合うことで、登場人物の行為の意味について、根拠となる表現をより意識できるようになる。

語感や語彙を豊かにすること(対義語)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にかそうとする意識が低い。

「言葉の意識調査（2年生173名対象）」より

辞書を使って調べることは難しいし、面倒くさいなあ。
(41%)

辞書よりパソコンの方が簡単で、すぐ調べられるよ。
(58%)

辞書を使っても、対義語や類義語、用例まで読んだりしないよ。
(34%)

実践の概要

単元名

対義語辞典を作ろう！

【類義語・対義語・多義語・同音語】教育出版

目標 資料（主に国語辞典）を使って、対義語辞典を作成することを通して、言葉に対する興味をもち、語彙を増やしていく。

内容

- 各自担当の語句について、資料を使い「対義語」と「類義語」及び「意味」を調べる。
- 「用例」について各自が短文を作成する。 ・グループで推敲・校正を行う。
- 語句からイメージすることをイラストに描く。
- 「オリジナル対義語辞典」を作成し、読み合わせをする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもち、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- 目的に応じた資料（対義語辞典・類義語辞典など）を選択することができるようになる。
- 例文を考え、互いに推敲することで、新しく得た知識（言葉）を適切な使い方で表現しようとする意識ができるようになる。
- 辞書に対する興味が深まり、意味以外の対義語や類義語、用例までを意識し、自ら調べるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

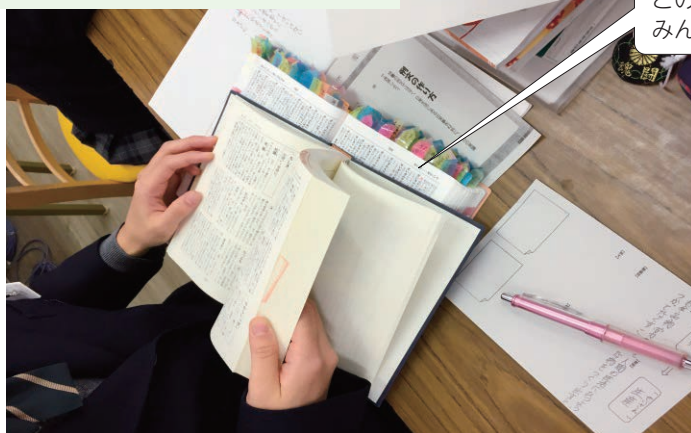
複数の資料を使い、より理解しやすい表現を考えさせる。

活動のねらい▶ 資料の内容を吟味し表現することによって、目的に合わせて必要な言葉を選択し、表現を考えることができる。

ここがポイント

1つの資料からそのまま書き写すのではなく、複数の資料を比べることによって、よりわかりやすい表現を考えさせる。そのために、学校図書館と公共図書館の団体貸出等を利用して、複数の資料を用意しておく。

複数の資料から表現を考える



どの辞書の意味がわかりやすいかな...?
みんなはどう思う?

(期待される生徒の姿)

資料（辞書など）によって、表現の仕方が違うことに気付くようになる。複数の資料を比較することによって、辞書に書かれている意味の理解が深まり、他者にとってもわかりやすい表現を考えることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★主体的な学びにつながる実践

- 自作の「用例」を4人班で推敲し、校正する活動を取り入れる。
- 各自の「語句のイメージ」を視覚化するためにイラストに表現する。

活動のねらい▶ 生徒同士で推敲し合う中で、より文脈に即した表現を意識することができ、自作の「用例」についても客観的に見直すことができる。
• イラストで表現し、それを説明する中で、自分が何を伝えたいのかが明確になり、伝えたいことに適した表現になっているかを考えながら話し合うことができる。

ここがポイント

- 用例の書き方は、事前に、他の語句を使った用例の見本プリントを用意する。
- 作成上のポイント=①身近なテーマを題材にして書くこと、②主語と述語のある一文形式にすること、推敲のポイント=①文中における語句の使い方が適切であるか、②主語・述語があり、文の形になっているか、③誤字・脱字はないか、④個人名を使っていないか、に沿って検討するよう指示する。

(期待される生徒の姿)

- 「用例」を推敲するために、4人で意見交換することによって、より文脈に即した使い方が考えられるようになる。
- イラストに表すことで、日常生活での言葉の使い方に対する意識が高まり、主体的な学びにつながる。

授業の様子



「AとBが相違する。」
は、おかしいよ。

「AとBが相違する点はCである。」
という形にした方がいいと思うよ。